

研究テーマ

思いや意図をもって表現し、音楽的感受性を高める指導の工夫

提案者 橋本慎也

I 研究テーマについて

1 テーマ設定の理由

本研究で言う「思いや意図をもって表現する」とは、明確な考えや願いをもって音楽表現をすることである。また、「音楽的感受性が高まる」とは、表現や鑑賞の活動において、音楽を形づくっている要素を感じ取り、自らのイメージした表現の実現に向けてそれらを活用することができることである。

昨年度より本研究主題の下、実践を行ってきた。第4学年では、自分の思いや意図を明確にし、それに合った表現を考え、試奏や練習及び話し合いを通して、イメージを音につなげていく学習の流れを設定した。その結果、自分の思いや意図に沿った表現を求めて試行錯誤する中で、実際に音で確かめながら構成を練り上げたり、練習を重ねたりする姿勢を身に付けることができた。音楽を形づくっている要素については、児童の思いや意図を表現しやすい音色に焦点を当て、自分の目指す表現に向けて音色の工夫をするようにした。実践を通して、音色への意識は高まったが、音色とその他の音楽を形づくっている要素を関連付けて思考するような場面は少なく、様々な音楽を形づくっている要素を総合的に活用することの必要性を感じた。

様々な音楽を形づくっている要素を総合的に活用することのできる発達段階としては、これまで学習を積み重ねてきている高学年がその対象として相応しいといえる。そこで、今年度は、主として高学年の表現において、音楽を形づくっている要素を総合的にとらえ、それらを活用しながら自分たちの思いや意図と実際の音を結び付けることができる児童の育成を目指す。児童の思いや意図を表現するには、活動の自由度が高い音楽づくりが適していると考え、思考しなければならない要素が多くなりすぎてしまい、児童の思いや意図と音を結び付けることが難しくなってしまう可能性があると感じた。そのため、音楽づくりと器楽演奏の両方のよさをもち合わせたアレンジを学習に取り入れ、思考するポイントを絞ることで、音楽を形づくった要素を複数活用しながら自分たちの目指した音楽を表現することを考えた。

以上の理由から本年度も本研究主題で研究を進めていく。



2 テーマにせまるための方策

研究テーマにせまるため、以下の視点を設け実践を行う。

— 視点 —

音楽を形づくっている要素を総合的に活用する場を設定することで、音楽的感受性を高めることができるようにする。

〈手立て〉

- (1) 音楽を形づくっている要素を総合的に活用するように、楽曲のアレンジを学習に取り入れる。その際、児童が音楽を形づくっている要素について整理しながら思考することができるようにするために、音色、速度、リズム、和声の響き等の各要素について段階的に思考する授業の組立てを行う。
- (2) 音楽を形づくっている要素を総合的に活用するように、アレンジした楽曲を聴き合い、音楽を形づくっている要素の工夫が、表現意図と実際の演奏をつなげる働きをしているかについて検証する場を設定する。

